

内科通信 No.6

時にはご家族とともに受診を・・・

「どうされましたか？」

「どこが痛みますか？いつから痛みますか？」

「それはどんな痛みですか？」

「何をしているときその痛みは強いですか？」



多くの場合、医師による診察は問診から始まることが多いですね。これは、診断や治療にとって、問診がとても重要だからなのです。病気の種類によっては問診がなければ診断できない、もしくは問診でしか診断できないものもあるくらいです。

近年日本の高齢化はすすんでおりますが、高齢になると、何らかの病気を抱える可能性は高くなります。そして、場合によってはご自分の病状や経過を的確に思い出せなくなったり、説明することが困難になる可能性も高くなります。ご自分の病状や経過を的確にお答えいただけないと問診が十分にできず、的確な治療や診断につながりにくくなります。さらには経過観察が難しくなり、通院していただいているにもかかわらず、残念ながら病状の進行や悪化を引き起こしかねません。

ご高齢の患者様のご家族様、思い当たる点がありましたら、次回の受診日には是非一度患者様と一緒に御来院ください。